

利根川中下流域における 歴史時代の河道変遷

埼玉県東北部、幸手市周辺の微地形を手がかりとして

Shifting of the Tone River in the
Middle to Lower Reaches during Historical Times:
Based on Micro-landforms around Satte City in Central Kanto Plain

久保純子

はじめに

- ①利根川流域と「東遷事業」
 - ②埼玉県東北部、幸手市とその周辺の地形
 - ③利根川の河道変遷
- まとめにかえて

【論文要旨】

「利根川東遷」事業の中心である加須低地から中川低地にかけて位置する埼玉県幸手市を中心に、歴史時代の利根川の河道変遷を明らかにするため、旧河道などの平野の微地形に注目して文献、絵図、遺跡分布などとの比較検討を行った。その結果、微地形より利根川主流の旧流路を示すと思われる河道は、いわゆる古利根川、浅間川のほかにも、幸手市東部の大規模な蛇行流路跡が認められた。これらは自然堤防上に古墳時代以降の集落などの遺跡をともなう。また、これまで利根川と併走するとされてきた渡良瀬川旧河道は利根川に合流していたと考えた。このことは近年注目されている「下総之国図」においても示されている。